

2025 年度 昭和大学 (II 期)

【 講評 】

昭和大学医学部の長文読解問題は難度が頻繁に大きく上下するが、今年度の 2 期は 2 題とも大幅に易化したと言える。また、要旨要約問題がなかった点でも負担は大幅に減少したため、英語にかける時間を短縮し、数学に落ち着いて取り組めた者が高得点を得たと思われる。

1 の文法・語法問題は例年通りほとんどが基本レベル。ここでは全問正解が望ましい。6 の a bolt out of the blue 「青天の霹靂」はやや難。2 は「知的能力の伸ばし方」に関する長文読解問題。医系長文だが読みやすい。4 の go deep 「深く掘り下げる」と 5 の start small 「少しづつ始める」はやや馴染みのない表現かもしれないが、文脈からその意味を推測することは容易なはずである。3 は「読解力」に関する長文で、こちらも非常に読みやすい。1 の「非識字(率)」を英語で書かせる問はやや難である。

【 解答・解説 】

1

1. D. with

「大統領選挙が 11 月に予定されているので、すべての有権者は誰に自分の票を投じるか真剣に考えている」
・付帯状況 〈with + 名詞 + 分詞〉

2. B. should

「肩こりに悩んでいるのなら、いくつかストレッチ運動をすることを勧めるよ」
・ recommend that S (should) do

3. D. might

「図書室にこの本はまだ返さないよ。後で必要になるかもしれないから」
・ might 「...かもしれない」

4. C. featuring

「その美術館は北斎の最も有名な浮世絵を呼び物とする特別展を来月開催する予定だ」
・ feature O 「O を特集する」

5. D. up

「みんなが合意する提案を考えるのが極めて難しいので、私は議長にはなりたくない」
・ come up with A 「A を思いつく」

6. C. bolt

「事故で叔父が突然亡くなったという知らせは、私にとって青天の霹靂だったので、知らせを聞いた後しばらく呆然としていた」
・ a bolt out of the blue 「青天の霹靂」

7. A. at

「富士山の頂上では、気圧が低いために水が 87°Cで沸騰する」

- ・数値や点を示す前置詞 at

8. D. considering that

「薬や治療に関する最新の情報が英語で発表されることが多いことを考慮すると、医療行為でも医学研究でも確固たる英語のスキルが不可欠なのは明らかだ」

- ・considering(that)SV... 「...を考慮すると」

9. B. If I had as much

「20代のころの忍耐力と集中力があれば、源氏物語を読み切ることもできるかもしれないのに」

- ・仮定法過去 〈if+過去形、S+助動詞過去形+原形〉

10. B. in

「かつては、二か国語話者の親に育てられた子どもはどちらの言語も不自由になり、言語の発達に問題が生じると信じられていた。しかし、科学的調査によってこれが誤解であると示されている」

- ・result in A 「Aという結果になる」

11. A. did I realize

「夜のショーが始まってようやく、私は折りたたみ傘を家に忘れたことに気づいた」

- ・only を含む副詞節が文頭に出たことによる助動詞 did による倒置形

12. A. find

「海外からの帰国子女たちは、帰国後日本の文化に適応できないと思うかもしれない」

- ・find it difficult to do 「...するのが難しいと思う」

13. D. every other

「この書式でエッセイを書くときは一行おきに書くようにしなさい。そうすれば校閲がしやすくなるので」

- ・every other line 「一行おきに」 = every two lines、every other day 「一日おき」

14. A. You have a point there.

「ジョー：先生たちは課題の締め切りに非常に厳しいけど、大して意見を言ってくれないからベストを尽くして締め切りに間に合わせるモチベーションがわからないよ」

「サム：それは一理あるね」

- ・You have a point (there). 「それは一理ある」という意味の慣用的表現。

15. B. I've seen worse.

「ジュディ：今日 1限目の授業に出られなかった。眼鏡を自宅に忘れて取りに帰らなければならなかつた」

「マリア：そんなのまだいい方だよ」

- ・I've seen worse. 「そんなのまだいい方だよ」という意味の慣用的表現。

2

1. D

- ・[3]の最終文「この（顕著に向上した）グループでは、流動性知能に関わる脳の一部が平均より大きかった」と一致する。

2. 「知的能力を高めるとされているからといって、好きでもないことをしてはいけない」

- be supposed to do 「…することになっている」
- not...because SV~「～だからといって…でない」
- enhance O 「O を高める」

3. So do what you like

- 「なので好きなことをしなさい」の意味の命令文。

4. (3) deep

- go deep 「深く掘り下げる」
- 空所を含む文は「たった1つのことに集中し、深く掘り下げなさい」という意味になって、「あれこれ手を出さず海馬の記憶形成システムを乱す」という直前の内容と自然なつながりとなる。

5. (4) small

- start small 「少しづつ始める」
- 空所を含む文は「もし瞑想やヨガが未経験なら、少しづつ始めなさい」という意味になり、直後の「1時間もやる必要はない」という内容と自然なつながりとなる。

3

1. illiteracy

- illiteracy rate 「非識字率」 literacy rate 「識字率」

2.

(A) (7) whether

- whether A or B 「A であろうと B であろうと」

- 前置詞 during + 動名詞は不可

(B) (2) out

- fill O out 「O (書式・申込用紙など) に必要事項を記入する」

(C) (5) for

- search A for B 「B を求めて A を探す」

3. 「読解力によって誰でも成功を保証されるわけではないが、高い読解力がなければ成功をつかむことはより困難であるということ」

- this が示す直前の文を解答欄の大きさに合わせてまとめる。

4. (3) If anything

- if anything 「(通例否定文の後で、文頭で用いて) どちらかといえば、むしろ」に意味。

5 「現代の活字環境の中で成功する人に求められる読解力のレベルが、かつてないほど高まっているということ」

- this が示す直前の文を解答欄の大きさに合わせてまとめる。

お問い合わせは 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>